



管内の教育

所報 81 号

主な内容

- 1 所長所感「先生、あなたは待てますか。」
- 2 今年度の学校訪問指導を振り返って
- 3 各指定校事業の成果
- 4 来年度の学校訪問指導及び研修会等の予定

出雲教育事務所
令和4年3月

「先生、あなたは待てますか。」

出雲教育事務所 所長 大場 尚樹

新型コロナウイルス感染症の収束は未だ見通せない状況ですが、令和3年度が終わります。コロナ禍にあっても、幼児児童生徒の命を守るという大前提のもと、一人ひとりの成長、学びの保障や心身の伸長を目指し、あわせて幼児児童生徒にとって思い出に残るかけがえのない1年となるよう、適切な判断のもと、精一杯の愛情で日々の保育、教育実践を積み重ねていただいた管内各園所小・中学校の先生方、職員の皆さま、それを支えていただいた管内市町教育委員会等の皆さまに、心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、5年ほど前に雑草だらけだった我が家の庭に小さな畑を作りました。以来、夏野菜を中心に季節ごとに収穫できる野菜を少しばかり育てています。自分にはよほど不似合いな家庭菜園なので、若い頃の私を知る昔からの友人・知人や過去の教え子たちに知られると、「想像できない」「あり得ない」「どうかしたのか」という声が聞こえてきそうですが……。

土を耕し、種や苗を植えます。春から夏にかけては朝夕の水やり、時々肥料も与えます。風に負けぬよう支柱をあてがい、時期によっては頻りに草取りも必要です。小さな畑でわずかな栽培とはいえ、それなりに手間と時間がかかります。だからといって、すぐに野菜ができるわけではありません。結果は数ヶ月も後にならないと出てきません。それでも世話をしているうちに、生長への関心と期待が高まり、愛情が湧いてきて、毎日のように様子を見るようになります。愛情というもう一つの肥料が野菜の生長を後押ししているのかもしれない。

教育、子どもを育てることも同じではないでしょうか。子どもたちは、それぞれが生命力や成長力を内に秘めています。これらを引き出し、さらに伸ばすには、周囲の教師や保護者の関わりが重要であり、結果や成果をせいては事を仕損じます。腰をじっくり据え、その時機が来るのを

待つ、心のゆとりが必要です。機械や道具で「モノを作る」と言いますが、生き物は「作る」とは言いません。植物や動物は一般に「育てる」と言います。

今年度から出雲教育事務所に配置いただいた幼児教育アドバイザーが、ある日の復命書に記載されていた所感です。

「夢中で遊ぶ子どもたちは失敗すらも楽しめる。成功ばかりを求めない。失敗も大事。教師は成功体験ばかりを追いかけない。こうすれば良いのと思う場面、教えたいと思う場面はたくさんある。でも、今は気付いていないが、この子にはいつかは分かるときがくる。年齢や発達の過程をよく観察しながら、自ら気付く、発見した！という主体性の芽を摘まないよう心したい。」

昨今は、学校や教育の世界でも「待つ」ということができなくなっているように感じます。ICT等の発展や普及がさらに結果や成果を性急に求める雰囲気加速させていないか心配です。教育、子どもを育てるためには、子どもたちの意思と可能性を信じ、愛情をもって接し、支え、焦らず待つことも大切だと思います。加茂町出身で大正・昭和期の著名な教育者、元日登中学校校長の加藤勲一郎先生の教えを思い出します。

「教育は詰め込むのか、作るのか、育てるのか。否、育つのだ。育つものは待たねばならぬ。先生、あなたは待てますか。」

コロナ禍にあっても、先生方、職員の皆さん、ご家族や地域の方々など、関係の皆さまからたくさんの愛情が注がれ育った管内の子どもたち。今すぐに成果として表れていないこともあるでしょう。しかし、その時機がいつか訪れ、一人ひとりがその子らしい花を咲かせ、実を結ぶ日が必ず来ると信じています。

「先生、あなたは待てますか。」



今年度の学校訪問指導を振り返って

今年度も様々な学校訪問指導で管内の小・中学校を訪問させていただきました。各学校より回答していただいたアンケート結果及び学校訪問時の様子を基に振り返ります。

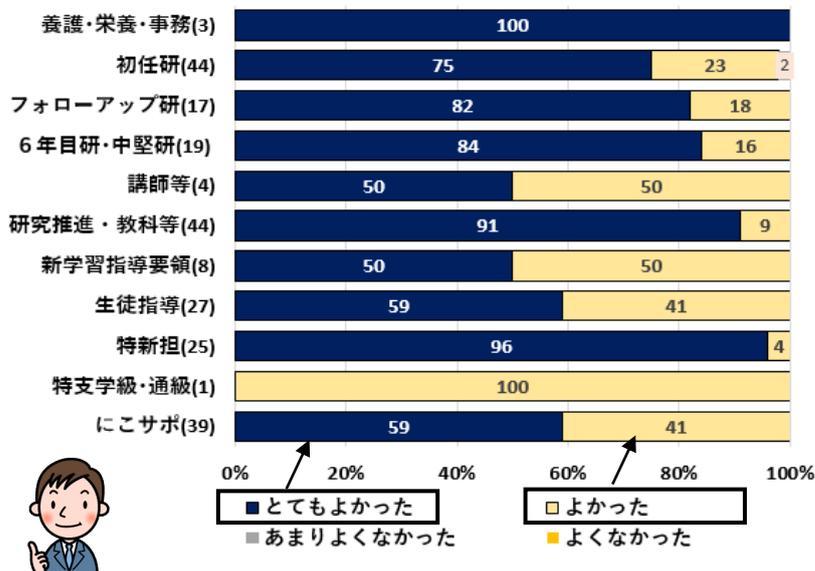
学校の研究推進の充実に向けて

学校の研究推進を目的とした「研究推進・教科等指導に係る学校訪問指導」では、多くの学校から申請していただき、約90%の学校から「とてもよかった」と高い評価をいただきました。学校訪問の当日だけでなく、事前の授業構想や指導案作成、校内研修など継続的に支援できたこと、研究推進の方向性や成果と課題を共有できたこと等が要因として考えられます。来年度も継続的に学校を支援できる体制を整えていきたいと考えています。

学校訪問指導アンケート結果

() の数字は訪問した学校数

グラフ内数値は割合〔%〕を表したもの



経験年数の少ない先生方に対する授業づくり等の支援の充実に向けて

昨年度に比べて「フォローアップ研修に係る学校訪問指導」と「教職経験6年目研修・中堅教諭等資質向上研修に係る学校訪問指導」の申請が増え、全ての学校から肯定的な評価をいただきました。「授業構想や指導案の書き方等丁寧に指導していただき勉強になった。」「訪問指導前に授業づくりについて指導(校内研修)していただいたことで、研究授業の質を高めることができた。」といった感想からうかがえるように、学校訪問指導を通して授業力の向上を図りたい、OJTと併せて研修をより充実させたいという学校や先生方の意欲の表れと捉えています。今後、先生方が取り組まれる課題研究に沿った指導の充実を図っていきたいと考えています。

特別支援学級及び通級指導教室を初めて担当される先生方に関わる学校訪問指導は25校で実施しました。この「特別支援学級、通級指導教室新任担当教員に係る学校訪問指導」では、96%の学校から「とてもよかった」という高い評価をいただきました。「個別に相談にのっていただけた時間が特によかった。」「他校の自立活動の様子や子どものめあてについて話を伺うことができ、とても参考になった。」といった感想から、先生方の困り感やニーズを把握することにより、具体化・焦点化を図った助言や支援につながったと考えています。

学習指導要領を踏まえた授業づくり支援の充実に向けて

今年度は中学校で新学習指導要領が全面実施になったことを受け、中学校では学習指導案による授業公開を実施していただきました。そして、研究協議では先生方全員参加のうえで、「指導と評価の一体化」について説明する機会を設けていただきました。評価について多くの先生方から質問をいただきましたが、「各教科で専門的な解説を聞く機会が必要だと思う。」といった感想から、来年度以降も学校訪問指導や市町教育委員会等の研修会において、「指導と評価の一体化」に基づく助言・指導を充実していきたいと考えています。

多面的な視点による支援の充実に向けて

生徒指導や特別支援教育、キャリア教育等に係る学校訪問指導において、複数の指導主事で訪問し、協議及び助言をした学校がいくつかありました。より専門的・多面的な視点で授業づくりや児童生徒支援の在り方について共有することができ、今後の学校訪問指導の在り方を探る上で意義のある訪問となりました。来年度も教育センターや市町教育委員会と連携を図り、より専門的・多面的な視点で支援ができるように努めていきたいと考えています。

上記の振り返りを踏まえ、別頁のように「令和4年度学校訪問指導スローガン・具体的取組」を設定しました。次年度も各訪問の趣旨を理解していただくとともに、有意義だったと感じていただける学校訪問指導になるよう努めていきます。



各指定校事業の成果

「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善プロジェクト事業

島根県教育委員会では、令和元年度から3年度までの3か年間、授業改善に取り組む小・中学校を授業改善プロジェクト研究推進校(出雲市立大津小学校、雲南市立木次中学校)に指定し、授業の工夫・改善に取り組んでいただきました。該当校の実践の概要は以下の通りです。

雲南市立木次中学校

(1)「カリキュラム・マネジメント」を意識した単元構想と実践

全ての教科等で「カリキュラム・マネジメント表」を作成されました。校内の一人一授業では「カリキュラム・マネジメント表」を活用して教科等横断的な単元を構想し授業実践をされました。授業を通して、指導者が教科等の横断的な指導の必要性を実感し、学習効果に対する手応えを感じられたことは大きな成果であると考えます。

(2) 探究的な学習スタイルの確立

(総合的な学習の時間:第1学年)

この3年間で、探究的な学習スタイルを模索してこられました。昨年度は、中間発表会でゲストチャーから貴重な意見をいただくことで、探究のサイクルを回すことができました。今年度は、単元ゴールである「わくわく生活できる雲南市にするための提言づくり」に向けた課題設定場面で、ゲストティーチャーからの助言をもとに「自分たちの考えは実現可能か」「人のために役立つのか」といった視点から、今一度課題を見直して再構築する取組をされました。



出雲市立大津小学校

(1)「子どもが問いをもつ」ための取組

「心を揺さぶる導入」「見通しがもてる学習課題」等を工夫することにより、追究意欲や必要感を高め、自事として考えを深めていこうとする姿を実際の授業から追究していきました。また、「児童の反応からめあてを設定」することで、児童が考えを整理し、意欲的に自力解決に取り組む姿もわかり、その転機となる授業者の発問が大きな鍵となることがわかりました。

(2)「追究し続ける」ための発問について

児童の発言を拾い次の「発問」等につなげていくことや、児童の考えをもとに授業を展開することで児童が新しい「問い」を見出していくことがわかりました。また、ねらいに向かう発問(主発問・補助発問・問い返し・揺さぶり等)を吟味、精選して、授業に臨んだことで、授業者は見通しをもって授業を展開し、数学的な概念や道徳的価値へも意識を向けた学びに変容することができ、授業のコーディネート力を磨く取組をされました。



幼小連携・接続研究事業 (雲南市立斐伊小学校区)

本事業は、令和2年度に策定した島根県幼児教育振興プログラムに基づき、幼児教育の質の向上とめざす子ども像の共有化を図る幼小連携・接続について実践的に研究を行い、県内の幼児教育施設と小学校に研究成果の普及を目的としています。

出雲教育事務所管内では、雲南市の斐伊小学校・斐伊保育所・斐伊こども園の受託校・所・園に加え、事業の趣旨に賛同いただいた同小学校区の四ツ葉学園保育所も参加し、保育・教育実践と教職員研修を柱とした実践研究となりました。“職員同士・子ども同士の交流機会を増やす”ことを基盤に据え、「定期的な管理職会による密な情報交換と、各教職員の課題共有を図ること」、「授業公開・保育公開を通じた活発な教職員交流と相互理解を図ること」を明確にしながら計画的に推進が図られていました。

10月にオンライン配信された幼児教育推進シンポジウムでの実践報告では、接続カリキュラム等を基にした教職員の合同研修会や、幼・小の交流活動等とおして、めざす子ども像を共有したことや学びの連続性を意識した取組につながったこと等の発表がありました。

今後も、斐伊小学校区の実践内容をもとに、当管内の各小学校区においても保育・教育の連携がさらに密になることを期待しています。



学校図書館活用教育研究事業 雲南市立掛合小学校

島根県教育委員会では、平成26年度から学校図書館を活用した授業実践に関する研究の推進に取り組んでいます。研究成果を広く公開することにより、学校図書館活用教育を県内に普及し、児童生徒の情報活用能力及び思考力・判断力・表現力の育成を図ることを目的としています。令和3年度は雲南市立掛合小学校に本事業の指定を受けていただきました。読書環境の整備や読書習慣の定着、学校図書館を活用した授業改善等に取り組み、11月に公開授業・授業研究会を実施しました。(2月の公開授業・授業研究会は新型コロナウイルスまん延防止のため、他校の先生方の参加をご遠慮いただきました。)

【研究主題】 自ら考え、ともに学び合う子どもの育成

～情報を活用して、自分の思いや考えをもちそれを伝え合う授業をめざして～

【授業や取組における成果の概要】

1 校内研修の充実

複数の外部講師による校内研修を実施することにより、学校図書館活用教育や思考力・要約力を育成する学習の在り方について理解を深め、授業実践に生かすことができました。

2 学校図書館活用を軸とした授業改善

①情報活用の基盤となる要約力の育成

要約学習等で習得したスキルを、各教科・領域等の情報活用場面において活用しました。図書資料等の本文を写すのではなく、要約して付箋紙等へ書き出す児童の姿が見られました。

②情報や思考の可視化・操作化・共有化

付箋紙等の情報や児童同士の思考を可視化

・操作化・共有化するため、ワークシートや思考ツールの工夫・活用を行いました。情報活用の過程における思考・判断・表現力を育てるための有効な手立てになっていました。

3 多様な連携の充実

授業者・司書教諭・学校司書等が連携して授業づくりや図書資料の準備等を行うことにより、児童の主体的な学びにつなげています。

外部人材による本の読み語り(ほほえみタイム)、読書週間(よむぞう週間)における家庭読書の推進など、多様な連携を通して児童の読書習慣の形成を図る充実した取組が行われています。



複式教育推進指定校事業 出雲市立窪田小学校

島根県教育委員会では、複式学級における効果的な学年別指導について研究を深めていただけるよう、県内の3校を指定校として複式教育推進指定校事業を実施しています。令和3年度は、出雲市立窪田小学校に指定を受けていただき、12月14日(水)には中学年算数科の学年別指導の授業を通して今年度の取組の成果を発表していただきました。これまでの実践の主なものをお伝えします。

1 「窪田スタイル」の作成と活用

本校は、全校あげて複式教育に取り組むため、「窪田スタイル」(令和元年度作成)を活用しています。ここでは、「ガイド学習」の進め方についても触れられており、ガイドの役割や学習の様々な場面で育てて欲しい児童の姿が整理されています。複式学級の学習指導を行うのに、心強い手引きとなっています。

2 深い学びにつなげる教師の働きかけの工夫

本校では、算数科の学年別指導を行う際に、深い学びにつながる補助発問ができるよう、同時間接指導場面を設け、タイムリーに直接指導ができるよう授業展開を工夫されています。発表会(12/14)での第4学年の授業では、「ガイド学習」を通して児童が見つけた「まわりの長さー正三角形の数=2」の「2」の根拠を図から考えさせる補助発問を事前に考えておき、

同時間接指導場面で、深い学びにつなげようとしていました。

また、本時は、第4学年が「思考力・判断力・表現力等」、第3学年が「知識及び技能」の育成を目指した授業であり、教師の軸足は第4学年の方にある授業展開でした。

直接指導場面が第4学年に多くなるように最初から計画されていたことも深い学びにつなげる教師の働きかけの一つであったと考えます。



令和4年度 出雲教育事務所学校訪問指導について

1 令和4年度学校訪問指導スローガン

『学校教育の魅力化を推進する学校訪問指導の充実』

授業力育成	○「各教科等の指導の重点」等を柱とした授業づくりの支援 ○キャリアステージに応じた授業力育成と人材育成への支援
生徒指導	○「生徒指導充実のための3つの視点」を生かした授業づくり支援 ○「次へのヒントが見つかるケース会議」の周知と取組への支援
特別支援教育	○一人一人の教育的ニーズに応じた授業づくり・配慮の支援 ○特別支援教育に関する教職員の専門性の向上

2 令和4年度学校訪問指導の具体的取組

(1) 授業力育成に係る学校訪問指導

- 「各教科等の指導の重点」に挙げられたポイントに沿った助言・指導を行う。
- 「授業チェックリスト」を活用した授業づくりと、授業と家庭学習が繋がる取組の周知を図る。

(2) 初任者研修及び相談型学校訪問

研修対象者への計画的な継続指導や助言を実施するとともに、ニーズに応じて各機関と連携した人材育成に関する支援を行う。

(3) 生徒指導に係る学校訪問指導

- 管内すべての中学校に計画的な訪問指導を行い、生徒指導の充実を図る。
- 希望する小学校に対して、学校や学級担任等のニーズに応じた支援を行う。

(4) 特別支援教育に係る学校訪問指導

- 通常の学級、通級指導教室、特別支援学級での授業力の向上をめざした助言・指導を行う。
- 個に応じた配慮や理解教育等の相談や研修を実施する。
- 校内の支援体制の充実への助言・指導を行う。

島根県教育委員会による研修会等の予定

研修会等	会場	期日
教育施策説明会（小・中学校校長対象）	出雲合同庁舎	令和4年 5月16日（月）
生徒指導主任・主事等研修（義務）	出雲合同庁舎	〃 6月 1日（水）
人権教育担当主任等研修	出雲合同庁舎	〃 6月23日（木）
小・中学校等校長学校経営実践研修	オンデマンド+オンライン	〃 6月29日（水）
小・中学校等教頭学校運営実践研修	オンデマンド+オンライン	〃 10月18日（火）

※上表は、現時点で予定する令和4年度の悉皆研修の内容です。

来年度の行事予定表に
入れておいてください。